

第 18 回 日本緩和医療薬学会年会 精神科領域シンポジウムのご案内

謹啓 時下、先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、「第 18 回日本医療薬学会年会」において、

精神科領域のシンポジウムを下記の通り開催の運びとなりました。

詳細は、ホームページ(<https://convention.jtbcom.co.jp/18jpps/>)をご覧ください。

先生方のご参加を心からお待ち申し上げます。

謹白

記

シンポジウム 10 薬剤師のチーム医療によるがん患者への精神科的アプローチの基礎・応用・実践

【開催日時】 2025 年 6 月 22 日(日) 10 時 15 分～11 時 45 分

【オーガナイザー】加藤 剛(所沢慈光病院薬剤部、(一社)所沢市薬剤師会)

土井信幸(高崎健康福祉大学薬学部 地域医療薬学研究室)

【趣旨】

がん患者の心理的な苦痛に対し適時適正な支援が行われないと、精神症状から身体症状への発展や治療拒否などに繋がり、患者の人生に悪影響を与え QOL の低下を招くリスクが高まる。したがって、がん患者の心理的な苦痛に対する精神科的アプローチは非常に重要であり、薬剤師はがん治療経過に併せた適切な薬物療法を提案することが求められている。チーム医療による円滑な医療の遂行は、患者の QOL を高める上で不可欠である。チームにおいて薬物療法を主導・支援するのは医師・薬剤師であるが、医療支援の貢献度は薬剤師個々のスキルに依存している。すなわち、薬剤師個人のスキルアップが、チーム医療の質を高める上で重要なのである。本シンポジウムでは、薬剤師のチーム医療におけるがん患者への精神・緩和領域における質の高い薬物療法を実践する上で必要な知見、技能、覚悟について参加者の皆様と一緒に考えたい。

【座長】加賀谷 肇 先生(湘南医療大学薬学部)

坪内清貴 先生(金沢大学附属病院薬剤部)

【演者】

菅野ゆみか(千葉県がんセンター薬剤部)

「がん治療における精神症状と薬剤師の役割

ーゲートキーパーとしての視点と処方提案の実践ー」

池田里江子(ふれあい薬局飯能店、(一社)埼玉県薬剤師会、日本薬剤師会)

「ACP って本当にだれがいつするの？」

土井信幸(高崎健康福祉大学薬学部 地域医療薬学研究室)

「地域包括ケアシステムにおける薬剤師のがん患者への

精神的アプローチのプロフェッショナリズムについて考える」

— 問い合わせ先 —

所沢慈光病院薬剤部 加藤 剛 (FAX : 04-2922-2934、E-mail : pharm11@kouyukai1968.or.jp)